

第5回桑名市地方創生会議 会議概要

日時・場所	平成 27 年 11 月 26 日（木）13：30～15：00 桑名市役所本庁舎 3 階第二会議室
出席者	委員 10 名 市 4 名 事務局 2 名 （三重大学 2 名） 傍聴 6 名
会議次第	1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 事項 （1）桑名市議会全員協議会における質疑提案等について （2）桑名市人口ビジョン（仮称）最終案について （3）桑名市まち・ひと・しごと創生総合戦略（仮称）最終案について 4. その他 5. 閉会
概要 （主な意見）	● 桑名市議会全員協議会における質疑内容を参考に修正した「桑名市人口ビジョン（仮称）最終案」及び「桑名市まち・ひと・しごと創生総合戦略（仮称）最終案」を桑名市地方創生会議の全委員が承認し、5 回に渡る桑名市地方創生会議が終了。本会議では、これまでの会議における感想及び「桑名市人口ビジョン」、「桑名市総合戦略」を今後どのように実行・活用し、「暮らし」と「インバウンドの増加」につなげていくかに関する意見をまとめた。 3. 事項 ・ジュニアサミットを桑名市で開催することが決まった現在、河川ゴミのように生態系を破壊するような環境問題に関する政策を考える時期であると思う。 ・桑名市は、高齢者や子どもが「住みやすいまち」として取り上げられることが多いが、それは国や県のレベルが低いと相対的によく見えることが考えられる。今後も、より住みやすいまちとして認識され、発展していくために努力し続けることが重要である。 ・桑名市民の心のよりどころはやはり「川」や「多度山」のような自然であると思う。例えば、修学旅行など市外に出て帰ってくる際、多度山が見えると「帰ってきた」という気分になったりすることが

	ある。 ・自治会からの協賛金や地元企業からの寄付金を集め、市内小学校で「ふれあい秋まつり」を行った。その際、子どもたちのための「ふるさとをつくる行事をしていきたい」という校長先生の話があり、とても感心した。また、トマトの収穫体験では、四日市など他市からのたくさんの人が訪れ、これこそインバウンドの増加につながる交流であると感じた。 ・地域の人、つまり桑名市民が外部の人に対しておもてなしをするという気持ちを持って行動することがインバウンドにつながると思う。 ・最近では、他国の観光客から、東京や京都ではなく、その次の都市での観光を求められることが多い。そこを狙って、多くの外国人がリピーターとして来られる桑名にしていくことがインバウンドの増加につながる。 ・「暮らし」と「インバウンド」を総合戦略の柱とし、方向性を明確にしたうえで議論を始めたため、まとめやすかった。 ・総合戦略の策定原則として、自立性や将来性、地域性などが求められているが、桑名は独自性を打ち出すのに良い規模の自治体であることは間違いないと思う。 ・「川を渡る」ということから、桑名市の出入り口を桑名駅だけであると考えてのではなく、川を挟んだ桑名への入口全体の整備が必要になってくると考える。 ・アンパンマンミュージアムが長島にあるのにもかかわらず、施設名称が名古屋になっている。それは、神戸や仙台のようにお客さんがイメージしやすい都市を中心にしているからである。今後は、ジュニアサミットをきっかけに、「アンパンマンミュージアム in 桑名」が当たり前になるように桑名を有名にし、イメージしやすいまちにしていく。 ・桑名にはハブ機能がある。名古屋、いなべ、四日市などをつなぐ地理的に中心的な存在である。今後はハブとしての機能を高めると共に、周辺の市との連携を強化していくためにも、桑員地区の玄関口である桑名駅周辺施設の整備が必要である。また、桑名が活性化するためには、周りも活性化する必要があると考える。 ・桑名産業のブランド化のために、個々の企業のオリジナル商品開発などを支援していくことが大事である。例えば、企業における成功事例などを集め、発信することによって桑名産業のブランドが見え
--	---

	てくると思う。 ・地場産業の活性化は個人では難しい。そこで信用度の高い行政がバックアップをする体制を整えることも大事かもしれない。 ・PDCAサイクルのもと、今後、総合戦略の中身の部分がどのような形で実行されるかをきちんとチェックすることが重要である。また、「駅前設備を整える」のような意見は前から出ているが、まだ目に見える形となっている物がない。 ・最近公園の整備が終わっているため、公園や六華苑を活用し、観光産業を伸ばしていくことも可能になってきている。また桑名ブランドを確立していくにあたって、観光や産業など様々な分野で、ブランド化できるものを目に見える形にしていけることが重要であると考えます。 ・長島は、昔から長島観光開発総合計画を立て、長い島をどのように観光地化していくかについて考えてきた。その結果として、さまざまな施設を取り入れ、多様な体験ができるように長島のリゾート地づくりを続けてきた。また、日本には「温泉に入っておいしいものを食べる」ということをご褒美として考える人が多い。これに着目し、力を入れてきたのが長島温泉であり、今の長島リゾートである。つまり、すでにある材料で、人を癒す、ほしいものを提供し、満足させるということが最も重要であると思う。 ・市内の小学校では、小学校6年になったらその場所の由来など、桑名を自分たちの故郷として認識できるように説明を行っている学校がある。新しいものを作らなくても、このようにすでに持っている材料（歴史など）を活用し、次の世代につなげていくことこそが、桑名のブランド力につながるのでは。 ・最近の桑名市の行政（市長をはじめとする）は、市民に寄り添っているような感じでとても話もしやすくなってきている。つまり、官の姿勢が変わってきていると思う。これからは、「官」が出来ないことを「民」が支えるように、互いが連携し合うことが重要である。 ・桑名の特徴として「川」というキーワードがあることから、今後は、船運事業やウォーターフロントなどの利用度が高くなるようにし、観光スポットとして認識されるよう目を向けることも大事である。 ・PDCAサイクルを回し、修正を加えながら政策を進めていくことが最も重要である。 ・「暮らし」という面において、働く人が満足できるまちにすることが大事である。また、外から人が来たからと言って満足するのではな
--	--

	く、人が来たあと、しっかり住み続けられるようにサポートしていくことが重要である。 ・行政ができないことを民の力で支えていくような、意識改革のようなことが必要かもしれない。そのためには、総合戦略や総合計画を市民が触れやすいようにすることが重要である。 ・市民が税金を払って、市からサービスを受けるような消費者のような感覚ではなく、市民と行政と協力し合って一緒にまちをつくり上げていくという気持ちを持つことが大事である。 ・市民団体は政策や課題を提案するばかりではなく、解決策を持って一緒に実行することが良いと思う。そのためには、戦略やビジョンに合わせ、関連のある場所（病院や学校など）に総合計画及び戦略の冊子を置き、多くの市民の目に触れるようにし、みんなで課題や方向性を考えていくようなことが大事である。 ・すでにあるものに手を加え、磨き上げる作業を市民が行い、官がサポートすることがブランドづくりであると思う。 ・桑名は、川と、とても豊かな縁（水の恵みでハマグリが名産品になっていることなど）がある。しっかり「川」の重要性を認識し、桑名のアイデンティティを再認識することが重要である。 ・桑名市は社会増の多い街である。これからは、外から来た人たちが桑名を故郷として認識できるように政策をしっかりと考え、実行することが重要である。
担当課	市長公室 政策経営課